



平成 29 年 2 月 10 日

各 位

会 社 名 株式会社ダイフク
代 表 者 代表取締役社長 北條 正樹
(コード：6383 東証第一部)
問 合 せ 先 広報部長 大岩 明彦
電 話 番 号 03-6721-3505

新4カ年中期経営計画「Value Innovation 2020」策定のお知らせ

当社グループは、2017年度（2018年3月期）から2020年度（2021年3月期）までの4カ年中期経営計画「Value Innovation 2020」を策定しましたので、お知らせします。

1. 新4カ年中期経営計画「Value Innovation 2020」の概要

当社グループが手掛けるロジスティクスシステムは、「B to C」ならぬ「C to B」、つまり消費者のニーズに合わせた商品を企業がネット通販などで提供する流通革命で欠かすことができない社会インフラになっています。また、IoTをはじめとするデジタル革命へいかに適応するか、がビジネスの成否を分けています。本計画では、社会的重責を担うという自覚のもと、お客さまに最適・最良のソリューションを提供することで、健全かつ持続的に成長してまいります。

(1) 最終年度 2021 年 3 月期の経営目標

売上高4,200億円、営業利益率8.0%

(2) 重点施策

- ・お客さまが求めるスマート・ロジスティクスを提供します。
IoT・AI等の先端技術の取り込みにより物流の「見える化・最適化」を実現し、お客さまが求める価値と競争優位を実現するソリューションを提供します。
- ・空港向け事業を「第4のコア事業」として確立します。
手荷物だけでなく旅客も含めたソフトウェア領域を強化し、3つのコア事業（一般製造業・流通業向け、エレクトロニクス業界向け、自動車業界向け）に次ぐ収益の柱を確立します。
- ・ローカル化とグローバル化の最適バランスを追求します。
世界各地域に密着したローカル経営を推進するとともに、グループ全体でイノベーションを加速させ、グローバル成長に即した最適なコーポレートガバナンスを構築します。

(3) 資本政策

ROE10%以上の安定維持を主に純利益増加により目指すとともに、株主還元方針を連結配当性向30%とするほか、当社グループの将来性に鑑み、さらなる成長投資による企業価値向上を柱とします。

「Value Innovation 2020」の詳細は、別紙資料をご参照ください。

2. 現4カ年中期経営計画「Value Innovation 2017」のレビュー

2017年3月期を最終年度とする「Value Innovation 2017」では、策定当初の目標は売上高2,800億円、営業利益率7%としていましたが、積極的なM&Aにより想定以上に規模が拡大したことを受け、売上高3,400億円、営業利益210億円、ROE10%以上と2015年5月に修正しました。売上高目標については、2016年の円高影響もあり達成が厳しい状況ですが、実需ベースでは成長を維持しています。また、売上高以外の目標につきましては、国内生産の構造改革・海外における生産機能の拡充・空港向け事業の黒字転換が大きく寄与し、達成できる見通しです。

コーポレートガバナンス面では、独立性のある社外取締役の選任、社外取締役を議長とする指名・報酬委員会の設置、信託方式による役員報酬制度導入、独自のコーポレートガバナンス・ガイドライン整備などにより、グローバル企業にふさわしい透明性・実効性のある企業統治を築いていきます。

以 上

Value Innovation 2020

中期経営計画 (2017年4月～2021年3月)

2017年2月10日

DAIFUKU

株式会社ダイフク



Value Innovation 2020

ダイフクの主要事業



FA&DA

一般製造業・流通業向け 事業

保管・搬送・仕分け・ピッキングシステム



eFA

エレクトロニクス業界向け 事業

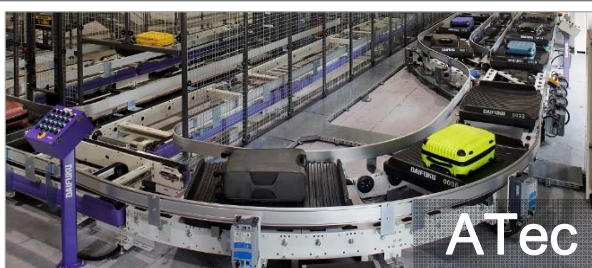
クリーンルーム用搬送・保管システム



AFA

自動車業界向け 事業

搬送・自動化・省力化システム



ATec

空港向け 事業

手荷物搬送システム、手荷物自動チェックイン機



洗車機 事業

洗車機、関連商品



電子機器 事業

産業用パソコン、ネットワーク、IoTソリューション

IoT: Internet of Things (モノのインターネット)

現状と経営課題

現状（背景となる事業環境）

市場動向

- 新興国の経済発展に伴うヒト・モノの動きの増加
- サプライチェーンの多様化・高度化

市場環境

- 技術革新による生産・サービスの変革
- グローバルレベルでの競争激化

経営環境

- 海外子会社に対する親会社の役割の変化
- M&Aによる海外子会社の増加

企業評価

- お客様が求める物流ニーズの多様化・高度化
- 事業活動と社会的健全性を両立させる企業運営

経営課題

事業領域

収益性

経営効率

ブランド力

中期経営計画 テーマ

事業領域

- 新コア事業の確立
- 既存事業の強化
- 新規事業の創出

収益性

- 製品力の強化
- 生産性の向上
- 生産体制の強化

経営効率

- ローカル化の加速
- 一体経営の推進
- 人的資源の有効活用

ブランド力

- 提供価値の変革
- 社員意識の変革
- 企業価値の向上

Value
Innovation

事業領域

新コア事業の確立

空港向け事業を第4のコア事業として確立

- 旅客増による空港設備の増大や空港のIT化ニーズにより、事業領域を拡大
- 手荷物に加えて旅客を対象とした空港運営サービスモデルの構築

既存事業の強化

スマート・ロジスティクスの提案強化

- IoT・ICT・AI技術の活用による物流の「見える化・最適化」を実現
- サービス手法・サービス品質を変革

ICT: Information & Communications Technology (情報通信技術) AI: Artificial Intelligence (人工知能)

新規事業の創出

高い成長性が期待できる分野・技術へ積極投資

- 先端技術を活用したデバイス&ソフトウェアの開発強化
- オープンイノベーションの活用

収益性

製品力の強化

お客さまに競争優位をもたらす製品の開発

- 画像・ロボット・AI・デジタル技術を組み込んだシステムによる差異化
- 安定稼働・予防保全に繋がるツール・デバイスの開発

生産性の向上

生産改革による更なる効率化の推進

- 小ロット品生産の標準化・自動化をグローバルに推進
- IoT・ICTを活用した「見える化」を推進し、労働生産性を改革

生産体制の強化

グローバルベースの最適生産・最適調達の追求

- グローバル展開に応じた生産拠点の新設・増強
- グローバルサプライヤー・フィールド系パートナー網の強化

経営効率

ローカル化の加速

ローカル経営の最適化

- エリア密着型の事業展開を加速すべく、ローカル経営の自律性を促進
- 積極的なローカル人財の育成および登用

一体経営の推進

ローカル化とグローバル化の最適バランスを追求

- グローバル展開に対応したグループガバナンスの最適化
- 経営理念・戦略を共有し、グループとしての一体感を醸成

人的資源の有効活用

グローバル展開を支える人財マネジメントの強化

- グローバル展開を牽引する次世代リーダーを育成
- 多様な人財の能力を最大限活用すべく、ダイバーシティを一層推進

ブランドカ

提供価値の変革

お客さまが目指すスマート・ロジスティクスの提供

- 「機能」ではなく、求められる「価値」を提供
- 次世代型物流ソリューションで、顧客価値を変革

社員意識の変革

チャレンジする企業文化へ進化

- ワーク・ライフ・バランス実現に向けた働き方の改革を推進
- 社員のやる気を生み出し、自身の成長が実感できる環境の整備

企業価値の向上

社会的価値創造への取り組み強化

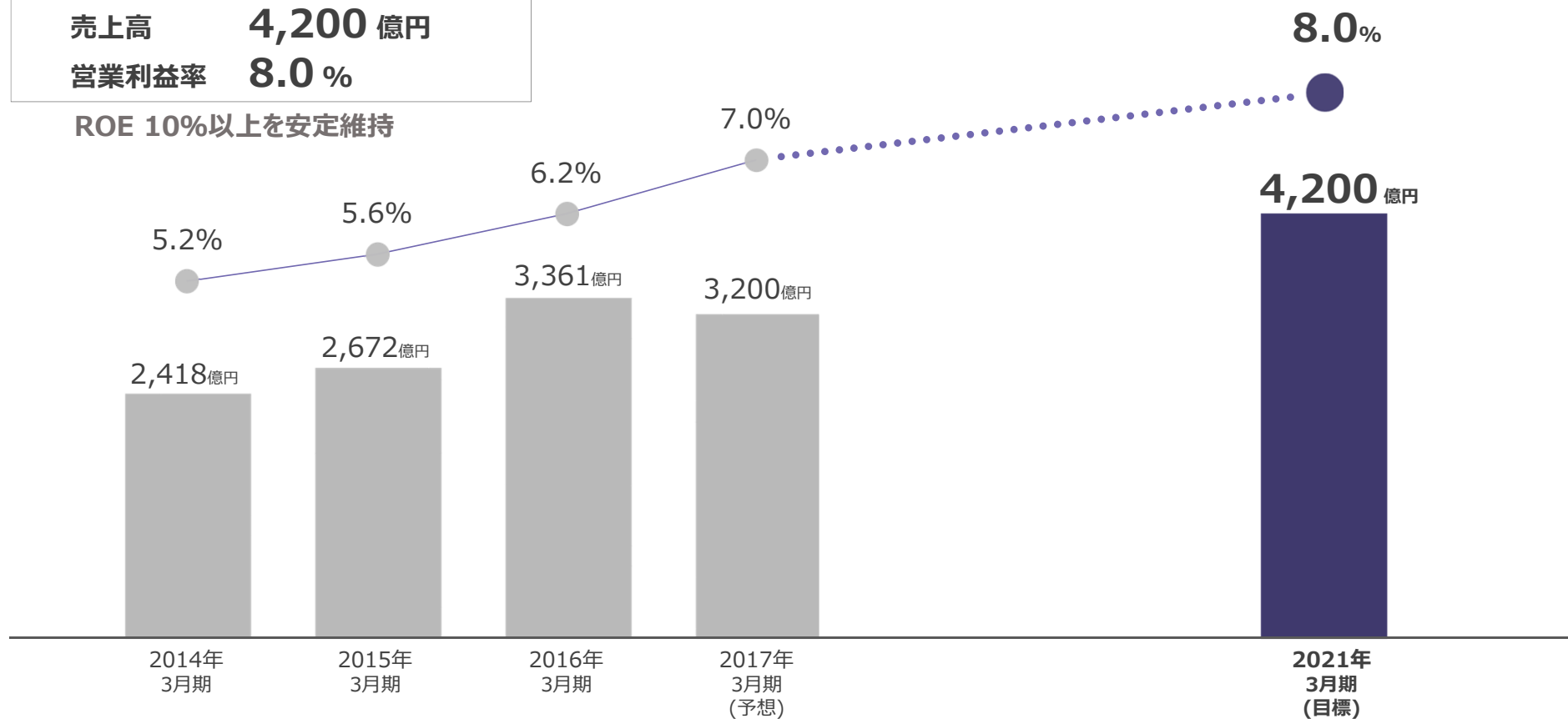
- 全社員が高い倫理観を持ち、コンプライアンスを徹底
- 環境負荷の低減や環境への影響に配慮した製品の開発に注力

Value Innovation 2020

最終年度の目標

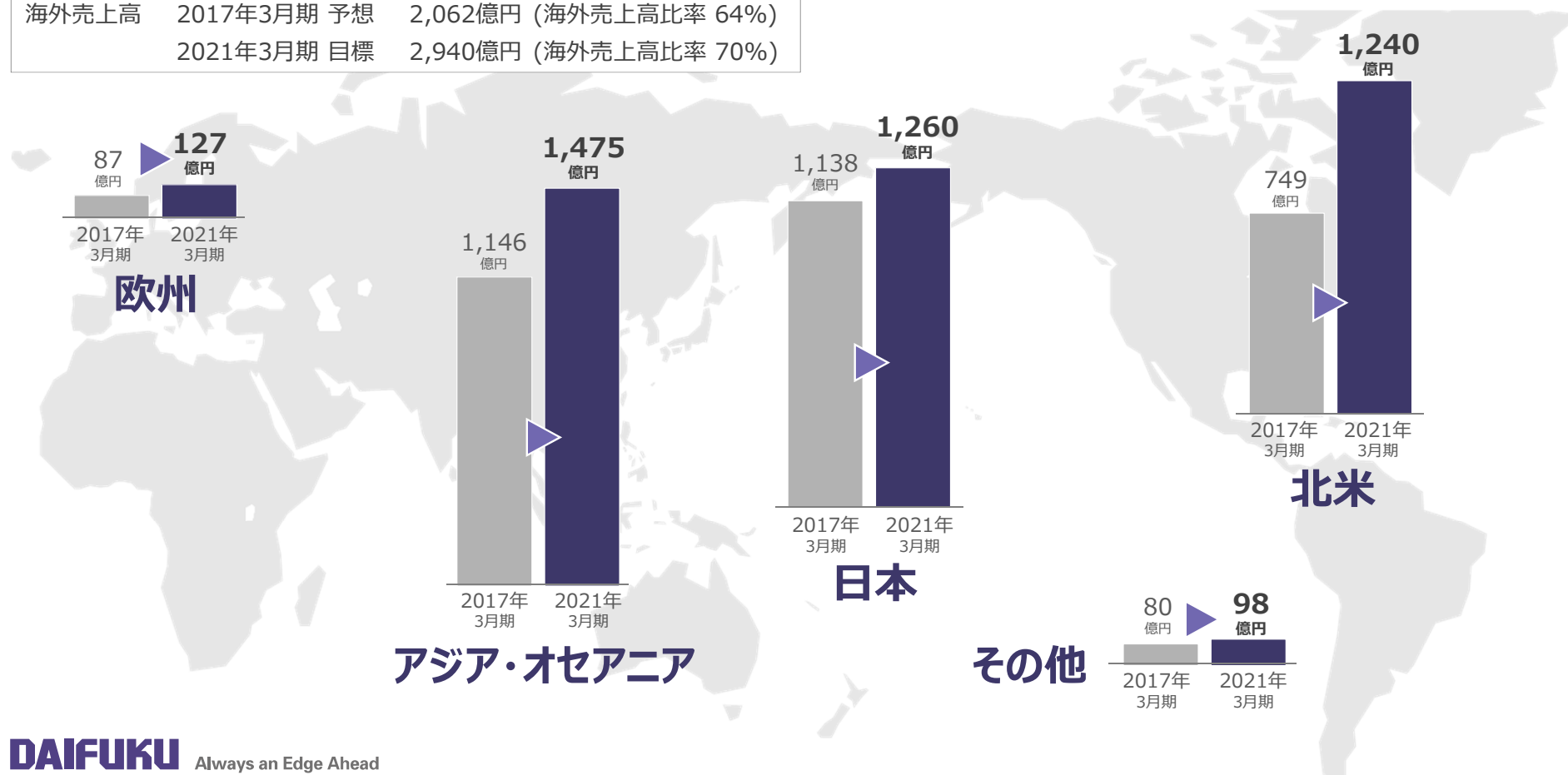
売上高 **4,200 億円**
営業利益率 **8.0 %**

ROE 10%以上を安定維持



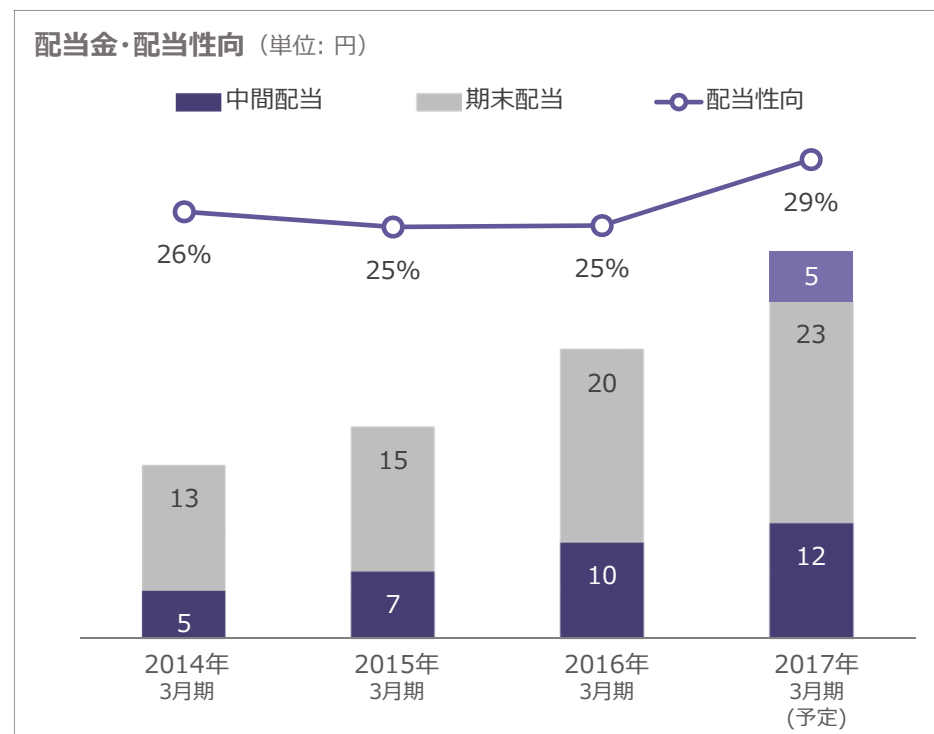
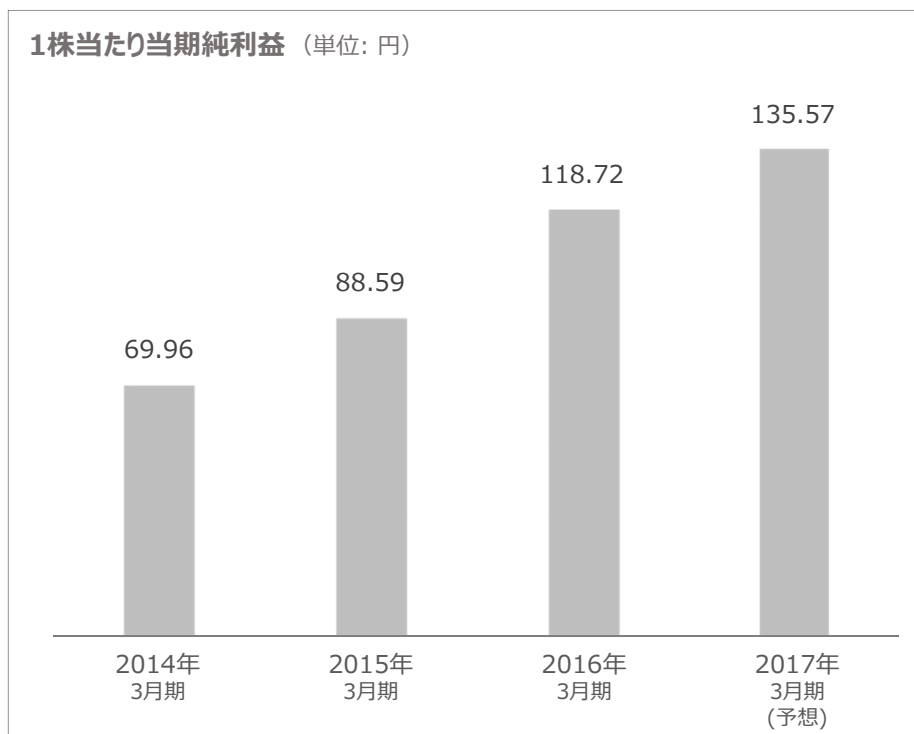
地域別売上高 (参考)

海外売上高	2017年3月期 予想	2,062億円 (海外売上高比率 64%)
	2021年3月期 目標	2,940億円 (海外売上高比率 70%)



株主還元方針 (参考)

本中期経営計画「Value Innovation 2020」におきましても、従来に引き続き、連結配当性向30%ならびに成長投資による企業価値向上を目指します



経営理念 (参考)

社是

日新

Hini Arata

今日の「われ」は 昨日の「われ」にあらず
明日の「われ」は 今日の「われ」にとどまるべからず

経営理念

1. 最適・最良のソリューションを提供し、世界に広がるお客さまと社会の発展に貢献する。
2. 自由闊達な明るい企業風土のもと、健全で成長性豊かなグローバル経営に徹する。

ブランドプロポジション

バリューイノベーション企業

ブランドメッセージ

Always an Edge Ahead

DAIFUKU

Always an Edge Ahead

将来の見通しに関する注意事項

本資料に記載されている将来の業績に関する目標、信念、計画等は、過去の事実ではなく、最新の情報から判断した経営陣の想定や信念に基づく事業見通しであり、潜在的なリスクや不確定要素を含んでいます。実際の業績は、さまざまな重要要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要要素としては、1) 当社グループの経営環境における消費者動向および経済情勢、2) 米ドルその他の通貨建ての売上・資産・負債に対する円為替レートの影響、3) コスト上昇や販売の抑制につながる安全その他に関する法令等の規制強化、4) 災害・戦争・テロ・ストライキ・疾病等の影響などが含まれます。なお、当社グループの業績に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。